

力学II（後半：原田担当分）

第9回

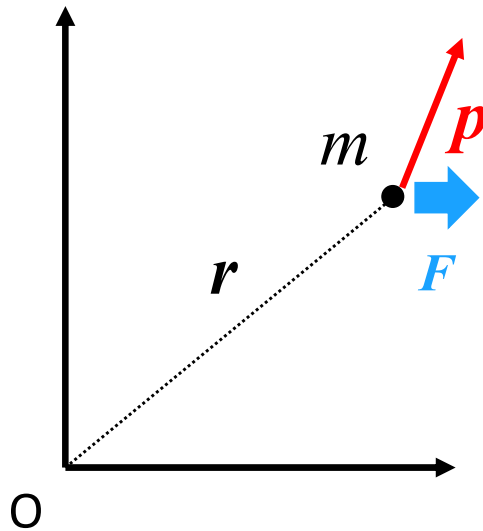
第9回の内容

角運動量とその保存則 (pp.92-99)

- 質点の角運動量とその性質
- 質点系の全角運動量とその性質
- 質点系に対するつり合いの条件
- 質点系のつり合いの例

角運動量とその性質

質量 m の質点にはたらく力を F とし、原点 O から測った位置ベクトルを r とする。



角運動量

$$L = r \times p$$

力のモーメント

$$N = r \times F$$

運動方程式 $m\ddot{r} = F$

運動量の定義 $p = m\dot{r}$

$$\frac{dL}{dt} = N$$

角運動量の時間微分は力のモーメントに等しい

角運動量の時間微分は力のモーメントに等しいことを示す。


$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \frac{d}{dt}(\mathbf{r} \times \mathbf{p}) = m \frac{d}{dt}(\mathbf{r} \times \dot{\mathbf{r}})$$

$$= m(\dot{\mathbf{r}} \times \dot{\mathbf{r}}) + m(\mathbf{r} \times \ddot{\mathbf{r}})$$

$$= m(\mathbf{r} \times \ddot{\mathbf{r}})$$

$$= \mathbf{r} \times \mathbf{F}$$

$$= \mathbf{N} \quad \text{力のモーメント}$$


$$\frac{d}{dt}(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = (\dot{\mathbf{A}} \times \mathbf{B}) + (\mathbf{A} \times \dot{\mathbf{B}})$$

$$\frac{d}{dt}(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = (\dot{\mathbf{A}} \times \mathbf{B}) + (\mathbf{A} \times \dot{\mathbf{B}}) \quad \text{を示す。}$$

x成分は、

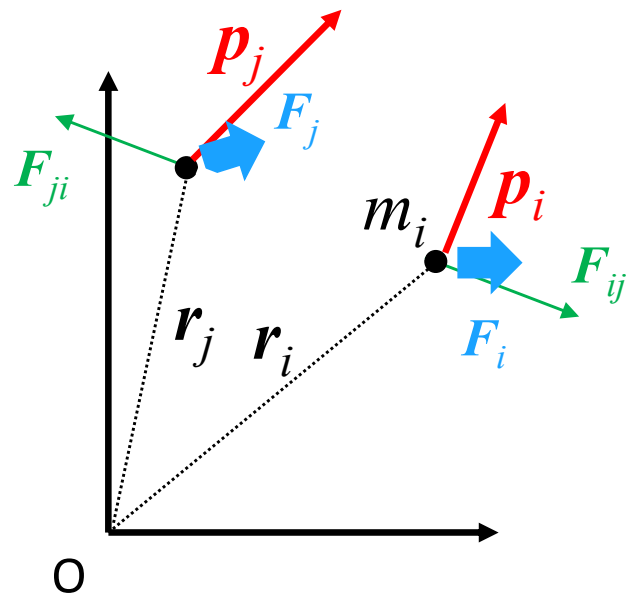
$$\begin{aligned} \left. \frac{d}{dt}(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \right|_x &= \frac{d}{dt}(A_y B_z - A_z B_y) \\ &= \dot{A}_y B_z + A_y \dot{B}_z - \dot{A}_z B_y - A_z \dot{B}_y \\ &= (\dot{A}_y B_z - \dot{A}_z B_y) + (A_y \dot{B}_z - A_z \dot{B}_y) \\ &= (\dot{\mathbf{A}} \times \mathbf{B})_x + (\mathbf{A} \times \dot{\mathbf{B}})_x \end{aligned}$$

y成分、z成分も同様であり、

$$\frac{d}{dt}(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = (\dot{\mathbf{A}} \times \mathbf{B}) + (\mathbf{A} \times \dot{\mathbf{B}}) \quad \text{が成り立つ。}$$

全角運動量とその性質

n 個の質点系があるとして、 i 番目の質点の質量を m_i 、はたらく外力を F_i と、原点 O から測った位置ベクトルを r_i とする。 i 番目の質点と j 番目の質点にはたらく内力を F_{ij} とする。



$$F_{ij} \parallel (r_i - r_j)$$

$$F_{ji} = -F_{ij}$$

全角運動量

$$L = \sum_i r_i \times p_i$$

外力のモーメントの和

$$N = \sum_i r_i \times F_i$$

$$\frac{dL}{dt} = N$$

全角運動量の時間微分は外力のモーメントの和に等しい

全角運動量の時間微分は外力のモーメントの和に等しいことを示す。

$$\begin{aligned}\frac{d\mathbf{L}}{dt} &= \frac{d}{dt} \left(\sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{p}_i \right) = \frac{d}{dt} \left(\sum_i m_i (\mathbf{r}_i \times \dot{\mathbf{r}}_i) \right) \\ &= \sum_i m_i (\dot{\mathbf{r}}_i \times \dot{\mathbf{r}}_i) + \sum_i m_i (\mathbf{r}_i \times \ddot{\mathbf{r}}_i) \\ &= \sum_i m_i (\mathbf{r}_i \times \ddot{\mathbf{r}}_i)\end{aligned}$$

ここで、i番目の質点の運動方程式は、

$$m_i \ddot{\mathbf{r}}_i = \mathbf{F}_i + \sum_{j(j \neq i)} \mathbf{F}_{ji}$$

\mathbf{r}_i をかけて和をとると、

$$\sum_i m_i (\mathbf{r}_i \times \ddot{\mathbf{r}}_i) = \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \sum_i \sum_{j(j \neq i)} \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ji}$$

$$= \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \sum_{i,j (i \neq j)} \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ij}$$

$$= \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \sum_{i,j (i < j)} \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ij} + \sum_{i,j (i < j)} \mathbf{r}_j \times \mathbf{F}_{ji}$$

$$= \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \sum_{i,j (i < j)} (\mathbf{r}_i - \mathbf{r}_j) \times \mathbf{F}_{ij}$$

$$= \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i = N \quad \text{外力のモーメントの和}$$

角運動量保存則

外力が働かない場合（ $\mathbf{F}_i = \mathbf{0}$ ）、 $\mathbf{N} = \mathbf{0}$ となり、角運動量は時間によらず一定となる。

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N} \iff \mathbf{L} = \text{const.}$$

質点系のつり合いの条件

：全ての質点が静止している状態

つり合いの状態では、重心は静止していて、全角運動量もゼロであるので、

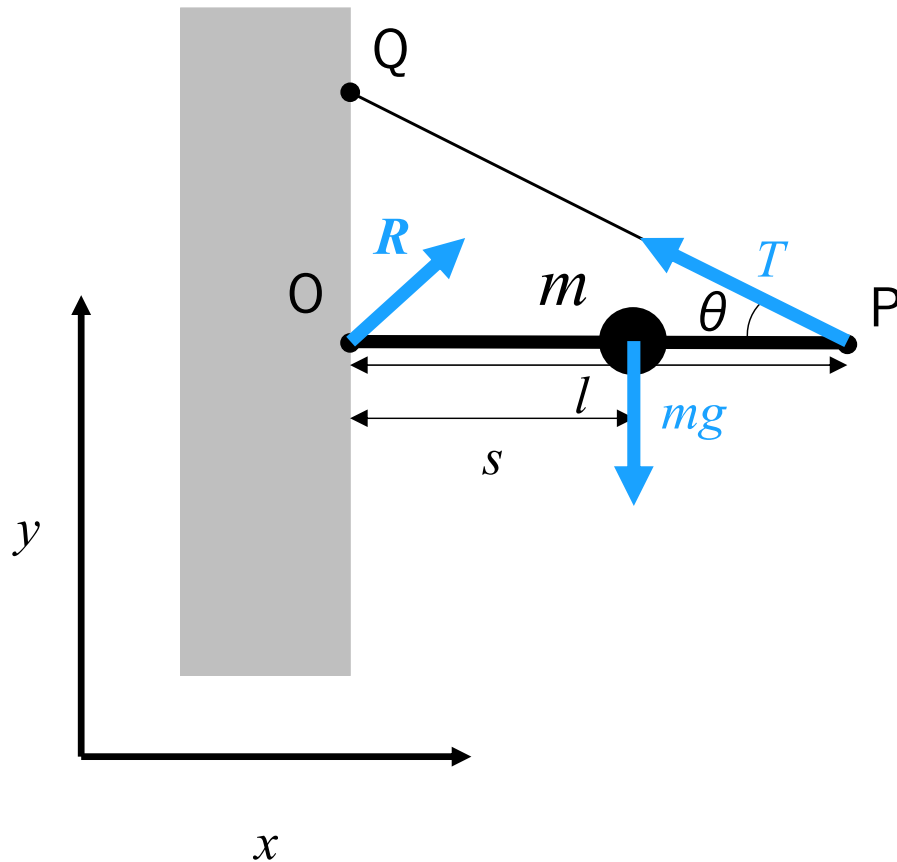
$$\sum_i \mathbf{F}_i = \mathbf{0}$$

$$\sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i = \mathbf{0}$$

が、質点系のつり合いの条件となる。

質点系のつり合いの例題

長さ l 、質量のない棒を垂直な壁面上の点 O に固定し、距離 s だけ離れた点 S に質量 m の物体をのせ、棒の他端 P を糸で引っ張り壁面上の点 Q に $\angle QPO = \theta$ となるように水平に固定する。糸の張力を T 、点 O における抗力 $\mathbf{R} = (R_x, R_y)$ を求めよ。



つり合いの条件より、棒に加わる外力の和はゼロであり、

$$R_x - T \cos \theta = 0$$

$$R_y + T \sin \theta - mg = 0$$

点 O のまわりの力のモーメントはゼロなので、

$$mgs - Tl \sin \theta = 0$$

したがって、

$$T = \frac{mgs}{l \sin \theta}, R_x = \frac{mgs}{l \tan \theta}, R_y = mg \left(1 - \frac{s}{l}\right)$$

となる。

力のモーメントは、どの点の周りでとっても、
結果は同じになる。

質点系のつり合いの例題

長さ l 、質量のない棒を垂直な壁面上の点 O に固定し、距離 s だけ離れた点 S に質量 m の物体をのせ、棒の他端 P を糸で引っ張り壁面上の点 Q に $\angle QPO = \theta$ となるように水平に固定する。糸の張力を T 、点 O における抗力 $\mathbf{R} = (R_x, R_y)$ を求めよ。

